

第3回「関西広域環境保全計画策定検討委員会」議事概要

- 1 日時 : 平成23年10月20日(木) 9:30~11:30
- 2 場所 : 滋賀県庁東館7階大会議室(大津市京町四丁目1-1)
- 3 出席者 : 津野会長、浅岡委員、井上委員、篠崎委員、高村委員、中瀬委員
- 4 内容
 - (1) あいさつ
関西広域連合 広域環境保全局長 上山哲夫(滋賀県琵琶湖環境部次長)
 - (2) 議事 「関西広域環境保全計画(素案)」について

主な意見

○「はじめに」および「第1章 概況」について

- ・パブリックコメントを踏まえて、森林のことも現状と課題の中の地球温暖化のところに記載されているが、将来像においても1項目ぐらい森林資源のことを書いておいたほうが良いのではないかと。また、生物多様性のところにも、森林と農地の機能について何らかの言及が必要ではないかと。
- ・排出量の評価のところ、データを見る限り産業部門は着実に下がっているということなので、今後もそういった自主的な取り組みの推進が求められるといった解説を入れていただきたい。
- ・排出量の部門別のシェアに関しては、何らかの形で図やグラフ、表なりで出していくことが望ましいのではないかと。
- ・全般的な全国の動向あるいは構成府県の動向を見ると、産業部門の排出量は確かに減っているが、エネルギー原単位、排出原単位悪化の傾向が見られるので、確認をしていただきたい。部門ごとのエネルギー効率あるいは排出原単位の動向を見ると、一体どこで努力をしなければいけないかということがわかってくる。
- ・家庭部門においては増加傾向にあるが、その要因というのは何かということを書く必要がある。特に都市部の戸数、世帯数の増加が大きくなっており、そこも含めて排出動向の要因を書いていただくことが必要ではないかと。
- ・府県ごとのポテンシャルについてもかなりいろいろなデータが出てきている。各省庁のデータがあると思うので、資料としてどれぐらいのポテンシャルが実際あるのかというのを見ながら支援していくことが有益ではないかと思う。
- ・長期的にはかなり大規模な排出削減が必要だということは明確に示しておくことが必要ではないかと。
- ・温暖化に関連する影響として、最近の熱帯夜の増加や真夏日の増加といったようなものがあるので、具体例として盛り込んでいただくのがよいのではないかと。
- ・特に関西圏では、琵琶湖・淀川流域のことを避けて通れないので、琵琶湖・淀川流域についても少し具体的に書いてもよいのではないかと。
- ・家庭部門、業務部門の排出量の削減が課題のように見せるということについてどうかと思う。産業部門も含めて全体としてどう減らすかということ、みんなで認識しないといけない。

- ・放射能問題等、非常に深刻であり、適応策を考えなければならないという段階に入っている。そういう意味で環境という観点からも、こうした情報がしっかり共有されていくということが、本当に重要だと思う。

○「第2章 関西が目指すべき姿」について

- ・「次代の環境を担う人材の宝庫」と「安心・安全で歴史と文化の魅力ある街」の2つを書いているが、この模式図に比べて非常に狭い意味の人材となっている。街づくりは人が担っていくわけなので、やはりこの模式図のほうが大事にすべきではないかと思う。先に安心・安全の街というのを挙げて、それからそれらも含めて広い意味での環境を担うというようにしてはどうか。
- ・産業活動は低炭素化だけでなく、省エネやエネルギーの効率的利用との2つをセットで記載していただきたい。
- ・産業活動の低炭素化が進むというのと経済活動の活力というのが「つつも」と書かれていることで、相反するような印象を与えてしまう可能性があるように思う。
- ・パブリックコメントでも関西産業ビジョンとの整合性を図ることが言われているが、双方ですりあわせが少し見えにくいと思う。こちらの「簡素でも豊かさが」という言葉は、むしろ産業ビジョンの「スローで豊かな生活」という言葉のほうがふさわしいのではないかと思う。産業ビジョンのほうにもこちらの記述を反映するなどの調整が必要。

○「第3章 施策の展開」および「第4章 計画の進行管理」について

- ・オフィス系での省エネ活動とかエコオフィス運動ということの記載については大賛成で、こういった観点で進めていただきたい。あと、プロセス系の産業系については、自主的な取り組み、自主的な分析ということに委ねざるを得ないところがある。
- ・今、我々が心配しているのがノートリアとアライグマである。これは今手を打っておかないとネズミ算式に増えていく。時期を失すると、対応の仕方が全く変わってくる。
- ・関西は「共生」という概念をずっと持ち続けた地域である。森林、田畑、そして今の生き物の「共生」という概念を現状で書かれるとよい。
- ・再生可能エネルギーの導入促進については、第Ⅱフェーズからということだが、これも第Ⅰフェーズからやるというふうにお書きいただくほうがよいのではないか。第Ⅰフェーズの中で、関西広域連合あるいはそれぞれの府県のところで、1つは持っている賦存量について明らかにしていただき、その上で何が導入の課題なのかということを持ち寄って、関西広域連合として何ができるのかということを第Ⅱフェーズにつなげていただきたい。
- ・バイオマスについても随所に記載しているが、温暖化の問題と資源循環のところとで同じようにバイオマスを捉えており、ちょっとそれぞれが切れているような気がする。統合というか、まとめてその中山間地域全体をどうしていくのかというような課題の中で捉えることができないのかと思う。

第3回 関西広域環境保全計画策定検討委員会 議事録

日 時：平成23年10月20日（木）9:30～11:30

場 所：滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1-1）

出席者：津野会長、浅岡委員、井上委員、篠崎委員、高村委員、中瀬委員

開会	(司会挨拶)
局長挨拶	(局長挨拶)
資料確認	(司会確認)
議事	津野会長により議事進行 (事務局より「関西広域環境保全計画(中間案)【資料1】について説明)
会長	<p>ありがとうございました。今、パブリックコメントと素案について説明いただきました。先ほど冒頭に申し上げましたように、今回を含めて2回という形ですので、本日でできるだけ集約をしていきたいと思っております。</p> <p>それで、計画素案につきましては全体で一括して議論するよりも、まず各章で区切って進めさせていただいて、そして最後に全体的な議論をいただきたいと思っております。</p> <p>それでは、まず「はじめに」と「第1章 概況」についてご意見を伺いたいと思っております。どのようなご意見でも結構でございます。また、質問でも結構でございますので、よろしく願いいたします。ページでいきますと、10ページまでになります。</p>
中瀬委員	<p>2点申し上げます。</p> <p>6ページの「生物多様性」の記載のところの下から10行目、「元来、日本は豊かな四季や自然に恵まれており、」の記載があります。これはこのとおりでいいのですが、それと次の段落の下から3行目、「野生動物は」の文章の順番を入れかえたほうがいいかなと思うのです。</p> <p>というのが、この「元来」というのは、いわゆる生態系サービスのことを書いておられると思うのですが、その前にまず生息環境の話をしてから、最後に我々人間が生態系サービスを楽しんでいるという構成にされたらいいかと思っております。「元来」から「地域色豊かな食文化は失われつつある」というところを最後の、次のページの「なお、関西地域では」の上のところに移</p>

	<p>動させられたらどうかという提案でございます。</p> <p>それから2点目が5ページの下、3行ぐらいから森林のこと、パブリックコメントを踏まえて記載されたと思うのですが、いろんなところで議論していて、地球温暖化と森林と一緒に書き込むべきかどうかというのが結構いろんなところであるのです。ここで書き込まれるとしましても、できれば11ページ以降の将来像で何か新たな項目を立て、1項目ぐらい書いておいたほうがいいかなという気がします。</p> <p>以上2点です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。2点、今ご指摘いただきましたが、事務局のほう、いかがでしょう。</p>
事務局	<p>1点目はそのようにさせていただきます。</p> <p>2点目でございますが、環境保全計画、環境ということなので、あえて温暖化と森林との関係をここで説明させていただきましたが、一度検討させていただきたいと思います。</p>
中瀬委員	<p>いろんなところでこの議論がありますので。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会長	<p>今のご意見は、2章以降のところに森林の項目を立てるということですね。</p>
中瀬委員	<p>例えば、11ページ以降で「将来像」、「■暮らしも産業も元気な低炭素社会」でいろんな項目が挙がっておりますが、そのあたり1つぐらい森林資源のことを書かれたらいいのかなという提案です。</p>
会長	<p>少し事務局のほうでご検討いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、工夫をさせていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ほかに何かございますか。</p>
井上委員	<p>3カ所ほど意見と質問なのですが、まずは4ページの最後の2行、排出量の評価のところ、家庭と業務での削減が課題であり、半分を占める産業部</p>

	<p>門での削減に期待ということになっておりますが、データを見る限り産業部門は着実に下がっておるといことなので、少し解説を加えると、「排出の半分を占める産業部門ではその自主的な取り組み、あるいはその景気の低迷により着実に排出量が下がっているところであるが、今後もそういった自主的な取り組みの推進が求められるところである」みたいな解説なのかなというのが1点。</p> <p>それから、5ページ目の表、「再生可能エネルギー供給の割合」は、前回確認できてなかったのですが、分母分子が左の解説では民生・農水用エネルギー需要に占める再生可能エネルギーの割合となっていて、例えば電気事業者の事業用の水力みたいなものも含めたこの割合になっているのか、ちょっとこれは中身の事実の確認でございます。どこまで入っているのかというのがその質問でございます。</p> <p>それから最後に、ちょっとまた議論があるかと思うのですが、8ページの「新たな広域的環境リスク」の最後の4行から5行のところ、「ひとたび原子力発電所の事故に伴う放射能汚染等、大規模な災害が起こると」という記載のところの「等」というのを、例えば今回のような台風を想定されているのか、原子力以外のどういった広域的災害を想定されての記載なのかということと、最後の「構成府県による情報共有・一元化などの連携した取り組みが求められている」という記載なのですが、これは防災のところであらうということに記載しているのか、この環境保全計画でもこういった情報共有の仕組みを課題として挙げて取り組んでいくのか、この点について、これも質問でございます。</p> <p>以上でございます。</p> <p>それでは順次、4ページの下2行のところからですね。</p> <p>4ページの下2行目でございます。これはパブコメを踏まえての記述ということでございますが、説明不足という点につきましては、ご意見を踏まえまして工夫をさせていただきたいと思っております。</p> <p>5ページの表については、ちょっと今調べておりますので、しばらくお時間をいただきたいと思います。</p> <p>環境リスクの8ページでございますが、これは大気・水・動植物に広範な被害が及ぶこととなる災害ということで、例示をさせていただいているということでございます。</p> <p>環境リスクに効率的、効果的に対処しつつ、この環境を健全な状態で維持していくためにも、それぞれが持っているリスク対応の情報を共有し、一元</p>
会長	
事務局	

	<p>化する必要があるということでございます。</p>
井上委員	<p>この計画に基づく1つの課題として、この場でそういった情報共有の議論をやっぱり今後ともやっていくという認識でございますか、それとも防災のほうに預けるということですか。</p>
会長	<p>この場というのはこの委員会ということですか。</p>
井上委員	<p>はい。計画に基づく課題として記載しておいて、そのフォローとしてやっていくということで。</p>
会長	<p>例えば、地震が起きた場合、いわゆる化学物質が流れ出すというようなことになりますと、かなり広域な問題になりますので、そういう化学物質の貯留等がどこで行われているかというのは、普段はなくても災害が起きた時は、そういうリスクについての観点から情報を各関連ですぐに流して、例えば滋賀県のほうで流れて下流に行く可能性がある、そういう情報を流してリスクをできるだけ小さくし被害を少なくするという意図ですね。</p>
事務局	<p>はい、そういうことになります。</p>
井上委員	<p>ということは、ここの計画に基づくネットワーク、新たな組織づくりをするという意味ではないという意味ですか。</p>
会長	<p>情報を共有するようなシステムを、今後、活動としてやっていくということですね。</p>
井上委員	<p>わかりました。</p>
事務局	<p>今の質問でございますが、この計画でどういう連携をとっていくかということにも関わってくるかと思いますが、「施策の展開」の16ページにも当然、広域連合として取り組む施策もあれば、それぞれ各府県が持っているような独自の、あるいはまた得意分野の手法を各府県で共有することで、全体として共有し、関西のレベルを上げていこうという、こういう役割も持たそうということに進んでおります。必ずしも広域連合として何か統一でやるということだけではないという認識をしております。</p>

井上委員	わかりました。
会長	それでは、先ほどの5ページの表の件はどうですか。
事務局	先ほどの5ページの部分ですけれども、分子の供給量のほうは小水力発電だけです。
会長	それはどこかに書く必要がありますかね。何かわかりやすいように。
事務局	そうですね。定義は書いておいたほうがいいと思います。
会長	では、よろしく願いいたします。
高村委員	<p>パブリックコメントを含めて丁寧に反映してくださっていると思っております。ありがとうございます。そういう意味では、ちょっと細かなといえますか、要求が高いのかもしれませんが、細かなところも含めて5つほど主に地球温暖化のところで申し上げたいと思います。</p> <p>1つ目は、この間、関西地域の色々な温暖化に関連すると思われる影響というのも出てきているように思いまして、一番最近のものですと、熱帯夜の増加ですとか、あるいは真夏日の増加といったようなものがあります。これは関西管区の気象台のほうからも既に出ておりますので、実際の影響についても、琵琶湖の影響については書かれていますけれども、少しは盛り込んでいただくのがいいのではないかと思っております。国土交通省などでは海面上昇、大阪湾岸の資産ですとか、あるいは生活基盤の問題というのも指摘をされておりますので、その点が1つでございます。</p> <p>それから2つ目は、先ほど井上委員からもご意見あったところですが、排出動向のところを少し丁寧に書いていただくのがよいのではないかと思います。つまり、これから関西広域連合で政策をとっていく際の前提となる認識をつくる場所だと思っておりますので、1つは排出量の部門別のシェアに関しては、何らかの形で図やグラフ、表なりで出していただくことが望ましいのではないかと思います。</p> <p>それから、これはちょっと自信がないので逆に事務局で確認をしてその事実に基づいて書いていただければよいのですけれども、恐らくここで書かれている総排出量のデータというのは、いわゆる算定報告制度と言うのか、電力の排出係数を掛けた形での排出量のカウントだと思っております、そういう理解でよろしければということですが、全般的な全国の動向あるいは構</p>

	<p>成府県の動向を見ますと、産業部門の排出量は確かに減っているのですがけれども、エネルギー原単位、排出原単位悪化の傾向が見られることがございます。これは上がっているかどうか、ちょっと確認をしていただきたいということが1つ。</p> <p>それからもう一つは家庭部門のところも、確かに家庭でも増えておりまして、この点、非常に大きな問題なのですが、その要因というのは何かということ。特に都市部の戸数、つまり世帯数の増加が大きくなっていて、そこも含めて排出動向の要因を書いていただくことが必要ではないかということでございます。それも事務局のところで確認をして書いていただければと思います。</p> <p>それから3点目でございますけれども、5ページの再生可能エネルギーのポテンシャルに関してでございます。これは自給率というのも参考にありますが、もう一つはこの間、やはり府県ごとのポテンシャルについてもかなりいろいろなデータが出てきております。内閣府のデータや環境省のデータが少なくともあると思いますので、これは資料としてどれぐらいのポテンシャルが実際あるのかということを見て、支援していくことが有益ではないかと思っております。</p> <p>それからもう一つ、温暖化の最後でございますけれども、冒頭のところに、恐らく国の計画でも大体決まり文句になっているのだと思いますが、やはり長期的には大規模な排出削減が必要だということについては、これはG8でもそうですし、それからこの前のカンクンの合意でも国の対策の2℃未満抑制目標といったことが、これはこういう条約の中ではないのですが、確認をされておりますので、少なくとも長期的にはかなり大規模な排出削減が必要だということは明確に示しておくことが必要ではないかと思っております。</p> <p>最後、長くなって恐縮ですけれども、先ほど森林のところでご意見がございましたが、やはり生物多様性のところにも、森林機能に関する点について何らかの言及が必要ではないかということでございます。</p> <p>もう一つは、7ページのところはかなり抽象的に書かれているのですが、特に関西圏では、淀川流域のことを避けて通れないので、何か淀川流域については少し具体的にお書きいただいてもよいのではないかというふうに思っております。これは7ページの冒頭のところになるかと思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。今の5点か6点のご指摘がありました。順番によりしくお願いいたします。温暖化の影響ですね。</p>
会長	

事務局	<p>温暖化の影響の具体的な現象をもう少しということでございます。それはそのように記述を検討させていただきます。</p> <p>それから、温室効果ガス排出量でございますが、シェア等も含めてもう少し丁寧ということですので、そのようにさせていただきます。</p> <p>それから、原単位について、産業が減ってきているのは電力の原単位が影響していることもあるかと思しますのでその動向を考慮させていただきます。</p>
高村委員	<p>今、手元にデータがございませんが、原単位の動向が1つ、まさにおっしゃるとおりなのです。もう一つは、それとの関係で、産業部門だけではございませんけれども、部門ごとのエネルギー効率等の、あるいは排出原単位の動向を見ていただくと、一体どこで努力をしなければいけないかということがわかってきます。</p>
事務局	<p>そういうことですね。世帯数の増加とか原単位の影響とかそういうことも少し分析というか、記述をさせていただきます。</p> <p>それから、再生可能エネルギーの賦存量の話がございました。府県別のポテンシャルもデータがございますので、ここに資料として挙げさせていただきます。</p>
会長	<p>比較的オーソライズされたデータはあるのですか。</p>
事務局	<p>はい。ご指摘のように総務省のほうでも総量調査をされておまして、そのデータがあるかと思しますので記述させていただきます。</p> <p>それから、2℃未満の上限抑制。長期的には大規模な削減が必要だということをごどこかに書かせていただきます。</p> <p>それから、生物多様性でございますが、先ほど中瀬先生からセンテンスを入れかえるということでしたが、今の7ページのところに少し森林の記述もございますが、ここにもう少し記述するということよろしいでしょうか。森林の役割をここに生物多様性でも書くということですね。</p> <p>それから、淀川流域の役割みたいなものを少し書くということよろしいでしょうか。</p>
中瀬委員	<p>森林、農地と両方必要ですね。</p>
事務局	<p>生物多様性のところでそのようにさせていただきます。</p>

会長	高村先生、それでよろしいでしょうか。
高村委員	はい、結構です。
浅岡委員	<p>先ほどの井上さんと高村先生のお話との関連ですけれども、先ほどの排出量の推移等につきましては、井上さんもご一緒でしたが、7月に中環審で議論がありましたときにも議論いたしまして、ここでよく家庭部門、業務部門の排出量の削減がかなりあって、私はこれだけが課題のように見せるということについてどうかと思います。というのは、日本は産業部門が先に排出量抑制で増加をいたしまして、遅れて80年代終わりぐらいから業務部門が拡大いたしまして、それから家庭部門のほうに移りました。このように、日本の社会構造の変化が排出量の変化ということにつながっているのです。遅れて、生活が変わっていったという話なのです。最近増えているからというように話だけが排出削減の根拠になるわけではないと思います。</p> <p>今、高村先生が言われるように、日本は例えばヨーロッパ社会と比べても、そういうふうな意味で突出して高いのだということではなく、もっとここで減らすためにどうしたらいいのかということ、分析しながらやるということが大事なのです。</p> <p>それから、産業部門については、自主的な取り組みの効果が出たから今後自主的な取り組みでというようなニュアンスで書いていただきたいというご意見がありました。これも本当に同じ議論を繰り返していますけれども、そういう問題ではないと思います。全体として2050年には8割の削減をするという流れの中で、うちは自主的とかそういう話ではなく、産業部門も含めて全体としてどう減らすかということ、みんなで認識しないとやっていけないということです。この部門の分析等につきましても色々な議論がなされていますので、よくそこを分析しながら記述していただきたい。</p> <p>特に、こうした排出量の割合というのは、電力配分後の間接排出量で皆さんやっぺらっしゃいますので、発電数の変化によって本当のところ動いているところがあります。そういう意味で、そこもすごく注意していただかなきゃいけませんし、関電の今回の状況から見ましたら、とても電力不足等、簡単に動かせない状況から見ますと、また大きく変わってしまうことがあろうかと思っています。それで、家庭の排出量が増えとか、企業の排出量が増えるということも、2011年度については顕著に出てくるかもしれません。今年はほとんどの原発を動かせないわけですし、来年もそうかもしれないです。そういうようなことも含めた上で、今後我々がどうしていかなくや</p>

	<p>いけないのかということにつながるには、ここの分析はしっかりやっていただかないといけないと思います。</p> <p>関西地方への影響というものは、先般の台風15号、16号でしたか、そのことなどを考えましても、やはり奈良は広域連合の外だというわけにもいきません。関西全体でありますし、和歌山で大変なことがありましたし、先ほど出ました大阪湾の海面上昇あるいは高潮等の影響というのは、本当にリアリティーのある問題だというふうに思います。地震の影響も、またこうした地震が合わさって起こる浸水の問題も、本当に深刻だということの方が現実だと思いますので、それはしっかりと認識しなければいけない。</p> <p>その関連でありますけれども、先ほど8ページについて、放射能問題等、非常に深刻でありますけれども、これらも含めて今、これも先般の中環審でも議論になったところでもありますけれども、もう適応策を考えなければならぬという段階に入っていますね。健康についてだけではなくて、そうした災害に対しても、例えば森林もバイオマス活用しようという話だけではなく森林そのものがそうした影響を受けていくわけでもありますので、そういう意味で環境という観点からも、こうしたものの情報がしっかり共有されていくということが、本当に重要だという議論を詰めかかっているところでもあります。これらが含まれてちゃんと運用されていくことをお願いしたいと思っています。</p> <p>それから、何かぼつんとあるなと思ったのは、この4ページの真ん中の(1)の3段落目「また、世界のエネルギー消費量は、」という記述が、これは一体どうするつもりで書いていらっしゃるのかよくわからないので、これでどうしようということを含めて、もうちょっと検討しておく必要があるのではないかと思います。ぼつんとこれだけありましても、この広域連合の問題として意味するところが今ひとつよくわかりません。</p> <p>ありがとうございます。今、大きく分けると3点ということでもよろしいですかね。1点目は中環審等の分析の話もいただきましたが、削減対策の方向だとかどうして削減していけばいいか、そういうことを考えてほしい、それがどうだという話ではないのではないかと思います。</p> <p>浅岡委員</p> <p>そうです。そこにつながるような位置づけをしていただかないといけない。前年比較で多いとかではなく、大きな目標をしっかり持たなければいけないということを、ここでもっとはっきり認識することのほうが、全体として重要なことだと思います。</p>
--	---

会長	<p>ここは、現状と課題という認識のところですので、後ろの施策の展開のフェーズⅠとかⅡのところその辺を少し書き込む。この前、委員のほうからは木材の利用のお話をいただきましたが、そのところでもう少し方向性を出すというところでしょうか。ここはまだ課題ですので、こういう課題があるよということでしょうか。</p>
事務局	<p>先生のご意見では、ここの数字だけ見ると、家庭部門、業務部門が非常に増えているが、その議論だけで家庭と業務が問題というような論旨が少し短絡的過ぎるのではないかなというように感じます。ですから、もっと長期的に見れば、家庭というのはいろんな社会構造の変化の中で、先ほどの先生の言葉をお借りすると、ヨーロッパ諸国に比べて遅れていた部分が、生活の豊かさというのを取り入れつつある中で、家庭から出ているCO₂というのは全体としては少なく、本当は例えば発電所から出ているというような状況があるわけですから、そういう部分を含めて、問題は家庭と業務にあって産業部門ではないというようなニュアンスではなくて、もう少し課題をしっかりとらまえるべきだというご意見だと思います。そのところは事務局で十分議論をさせていただきたいと思います。</p> <p>ちょっと大きなテーマだと思うのですが、要は化石燃料への依存を減らしていく必要があるわけですが、当然それはライフスタイルを見直すのと合わせて産業構造を見直していくということになります。</p> <p>そうしたら、具体の施策には何があるのかと言われますと、一番思い浮かぶのは、再生可能エネルギー、自然エネルギーの推進だとか、技術革新を期待するとかそういうことであろうと思うのですが、現状のところには、今、冒頭に申し上げましたように、ライフスタイルの変化とか、あるいは産業構造の変化、そういうことを少し書けばいいのかなと思っております。</p>
会長	<p>いずれにせよ、基本的にはヨーロッパ社会等に比べて家庭のほうは多くなっているわけですね。時代の差だというのはそれはそうかもしれないけれども、これから各家庭も取り組んで皆で減らすようなことを考えなければいけないという方向性はいいわけですね。浅岡委員のほうもそれはそういうことですね。</p>
浅岡委員	<p>ヨーロッパ社会に比べて日本が高いということはないのです。</p>
会長	<p>それはそういう認識ですか。</p>

浅岡委員	<p>そうです。それは割合から言うと日本のほうがはるかに小さいのです。それは間接でやっても小さいのです。</p> <p>再生可能エネルギーを拡大することも1つであります。これは家庭でやるとすれば太陽光発電を乗せるだけの話です。そういう意味ではなくて、家庭の中で削減しようと思ったら、いかなる製品を使うのか。製品の性能を改善しましょうということもとても大事なことですけれども、もともとの電力の排出係数自身が減っていくということでない、家庭の総量としては減っていないという問題になっているのです。その辺をご理解いただけないで書かれると、とても問題だと思います。</p>
会長	<p>それぞれの家庭は、ヨーロッパのほうでは再生エネルギーのほうが高くても、そちらの電気を使うという努力だっが入っているわけですよね。だから、何も電力会社だけではなくて、要するに各家庭の認識というのかなり大事な方向ではないですか。</p>
浅岡委員	<p>大事ですけれども、そういう選択ができるように今なっていないわけです。</p>
会長	<p>だからそういうふうには持っていかなければいけないわけですね。</p>
浅岡委員	<p>はい。そういう意味では、電力会社のある意味で送配電網の開放というようなことを含めてとらえなければいけない問題だと思います。もう少しいろんな要素があるのです。</p> <p>それからもう一つ、現状の課題といいますけれども、課題というものをとらえるときは、何が課題かというのは、どうしなければいけないかということがあって初めて課題があるわけで、そこを現状がこうだからという狭いところだけで考えているところの問題点を、私は高村先生もご指摘になったのだと思います。後でこのことについては説明します。</p>
会長	<p>わかりました。では、後の政策のところとの絡みも出てきますので、そこに回すということをお願いします。</p> <p>それから、2点目の8ページについてはご意見として承るということでしょうか。情報の共有化が重要だということですが。</p>
浅岡委員	<p>はい。そういう意味で温暖化についての適応策として重要になると思いま</p>

	<p>す。</p>
<p>会長</p>	<p>もう一点、4ページの「また、世界のエネルギー消費量は、」のこの3行の文章をここに書かれた意味というのは、どういうことでしょうかということですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>エネルギー消費にかかる傾向なり状況を記述したと、それだけでございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>5ページのほうで関西広域連合地域での地域のエネルギー供給を述べていますので、世界的にはこういった状況であるというところを、前の温暖化の世界的な状況と並べて書かせていただいたということです。</p>
<p>浅岡委員</p>	<p>どういう課題があるのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>エネルギー需給がひっ迫してくるのではないかという中で、関西広域連合の中でのエネルギーの使用状況はこうであるというふうな事実関係を書かせていただいております。</p>
<p>浅岡委員</p>	<p>課題にどうつながっているのかわからず、もう絶望だということなのか、これとは関係なく関西は独自にエネルギー需給をやるのか、どちらでもないような気がいたしますので、ちょっと唐突感があり違和感があるということです。</p>
<p>会長</p>	<p>しいて言うと、だから関西広域連合はもっと頑張らなければならないと、こういう話ですね。先生のご意見だと。位置づけですね。</p> <p>ここはこれでよろしいですか。文章としてここに残す、あるいは場所を移す。世界中の動きとして、こういう状況であるということを書いてあるという事務局のご説明です。</p>
<p>浅岡委員</p>	<p>そのことによって、本当にどう続くのかよくわからない。わざわざどうして書かれているのかがよくわからないのですけれども。だから、エネルギー消費量の増加が続いて燃料の調達が困難になるから準備を進めましょうと、自然エネルギーを進めましょうとか、地産地消でいきましょうとかというわけでもないのです。</p>

事務局	唐突感は確かにございますので、削除をさせていただきます。
会長	そうですか。
中瀬委員	よろしいですか。私は、ここの部分はやはり世界的にこういう傾向にある中で、京都議定書の枠組みのような世界全体でエネルギー需給、あるいはCO ₂ の削減、低炭素社会づくりに取り組んでいくような枠組みに対して、関西広域連合としての何らかの影響力を持っていくべきだという課題認識をここでは持つべきではないかというふうに思いますので、その部分を少し検討していただけたらどうかと思います。
浅岡委員	それならばよいかと思います。
会長	よろしいですか。事務局でここをどうするかはご検討いただきたい。 世界の動向がどうだという記述は重要だと。ただし、これを踏まえて位置づけはどうかということを少しご検討いただいて、場合によっては加筆をしていただくということよろしいですか。
浅岡委員	要は、エネルギー消費量が上がらないようにする努力も必要だし、上がったとしてもCO ₂ は減らせるようにすることが必要だということに、つながる話になっていないといけない。
会長	今の3点、よろしいでしょうか。 それでは、また後で帰ってくることを踏まえまして、次の第2章の「関西が目指すべき姿」についてということに移りたいと思います。それでは、第2章につきましてご意見がありましたら、よろしく願いいたします。
篠崎委員	15ページの「目指すべき姿のイメージ」の中に、一番下が人づくりで、そして街づくり、その中に自然共生型社会、低炭素社会、循環型社会という方向性があるわけですね。 14ページですけれども、「次代の環境を担う人材の宝庫」、「安心・安全で歴史と文化の魅力ある街」と、この2つを書いているのですが、この模式図と人材が、人材の意味が非常に狭い意味の環境人材となっていると思うのですね。 街づくりのほうはかなり広い感じだと。街づくりは人が担っていくわけですから、やはりこの模式図のほうは私は大事にすべきではないかと思いま

	<p>す。ですから、次代の環境を担う人材の中にも、そのアンダーラインの2つ目のポツを読むと、「次代の地域環境及び地球環境を担う人材」ですけれども、地域環境、すなわち街づくりを担うことになるわけですね。</p> <p>そうなってくると、これは先に安心・安全の街というのを挙げて、それからそれらも含めて広い意味での環境を担うというようにしてはどうか。</p> <p>どなたかESD教育の考え方をに入れてはどうかということでしたが、環境教育としての人材づくりの時に、もっと幅広く、持続可能な地域社会づくりという観点も入れるべきだと考えます。この順番から言いますと、14ページのところが逆転する。そして、人材の宝庫という場合の人材も、そういった歴史と文化の魅力ある街、生活環境の改善も含めた街づくりをも環境学習の中で担えるような力を持った人をつくっていくんだというふうに、幅広くとらえられてはいかがかと思っています。</p>
会長	<p>まず1つは、14ページの「次代の環境を担う人材の宝庫」の書く場所の位置ですね。</p>
篠崎委員	<p>位置と、それからもう少し幅広い人づくりとして記述をしていただきたい。</p>
会長	<p>もう少しサステイナブルディベロップメントを支えるような文調ですね。</p>
篠崎委員	<p>そうです。そのような人材。</p>
会長	<p>それで、まず位置としてはどこへ持っていくのですか。</p>
篠崎委員	<p>上下を入れかえるということです。</p>
会長	<p>安全・安心を前に持って行って、この行を入れかえるということですね。</p>
篠崎委員	<p>それで、その次代の人材の中に、こういった街づくりに積極的にかかわる人材を幅広く捉えて記載していただきたい。</p>
会長	<p>こういうものを全部担えるような人材を育てるのだから、人材の上にあるものを全部含めるという意味で、一番最後に持ってきてはいかがかというご意見ですね。</p>

事務局	<p>それはそのようにさせていただきます。</p> <p>中身でございますが、確かに環境教育、環境保全活動に絞ったみたいな形ですので、その辺をもう少し幅広く街づくり、持続可能な社会を担えるようなというもう少し広く、厚く記載するよう検討させていただきます。</p>
会長	<p>それから、この15ページの中のイメージ図の中には何か入れるものはありますか。それはよろしいですか。</p>
篠崎委員	<p>これはイメージ図ですからこれで結構です。</p>
事務局	<p>ちょっとお断りでございますが、そういう目指す姿を書きましても、施策のほうにそこまでつながるかという、なかなか難しいこともございます。</p>
篠崎委員	<p>環境学習とか環境教育をやっていると、自分の周りの環境を見直すことから広がって街づくりに必ずつながってまいります。逆に言うと、街づくりと環境学習というのは表裏一体の関係があると思います。</p>
会長	<p>今の関係でいきますと、29ページと31ページですね。具体的な施策のところを見てみますと、今のご意見では、この(4)と(5)も順番からいくと入れかえるということになるかと思えますし、ここの記述のところにもまたそういうようなことが具体的に書けるかどうかというようなところですね。</p>
事務局	<p>それは工夫をさせていただきます。</p>
会長	<p>それでは、またそのところでご意見を伺うということでもよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
中瀬委員	<p>非常にささいな話ですか、15ページのこの「街づくり」を「まちづくり」と書いていただいたら、今のラインが出てくると思います。</p>
会長	<p>そうすると、14ページの■も「まち」がいいと。事務局いかがですか。</p>
事務局	<p>わかりました。そのようにさせていただきます。</p>

<p>会長</p>	<p>ほかに何かございますか。</p>
<p>高村委員</p>	<p>2点ほどございます。いずれも11ページですけれども、代案がないまま申し上げるのは恐縮なのですが、目標をもう少し何かキャッチーなものにできないかというふうに思います。これ自身は全く間違っていないのですけれども、地域の住民が見たときに、もう少し来るものがないかと。ちょうど代案として具体的なものはないのですが、実際はこのページの5行目のところに幾つか「環境先進地域“関西”」とか、「安心、安全、快適に生活できる持続可能な社会とか」というような、そういう意味では私にとってみると非常にキャッチーな言葉でございまして、ここはほかの委員の方の意見も含めてご検討していただければというのが1つです。お答えというよりも感想的なものでございます。</p> <p>2つ目が同じ11ページですが、「将来像」の「■暮らしも産業も元気な低炭素社会」の上から2つ目のところでございますけれども、細かなことなのですが、1つは産業活動の低炭素化とともに、ここはぜひ省エネなりエネルギーのより効率的な利用なりの2つセットでお願いしたいというのが1つでございます。</p> <p>もう一つは、同じくこのフレーズでありますけれども、これは多分そんな意図ではないと思うのですが、産業活動の低炭素化が進むというのと経済活動の活力というのが「つつも」と書かれていることで、相反するような印象を与えてしまう可能性があるように思ひまして、この5行のところ少し工夫していただければと思います。例えば、もう社会資本でございますけれども、当然化石燃料コストが上がるというふうに見通しがございまして、先ほどのまさに世界の新興国のエネルギー需要云々というのは、まさにそこにつながってくると思いますが、そういう意味では低炭素化ないしは先ほど言いましたエネルギーの効率的云々というのは、むしろ産業活動にとってプラスになる側面というのがあると思っております。そういう意味では、必ずしも矛盾するものではないと思ひますので、このところ、文章の語句の問題ですが、ご検討いただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。今2点いただきましたが、まず1点目はどうですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>広域計画から引用しています。おっしゃるように、それを置いて下に少し説明を加えるということも検討いたします。</p>

	<p>それから、2点目はウイン・ウインの関係でいくと、そういうことを文章でうまく書きなさいということだろうと思うので、そういうことでよろしいですか。</p>
高村委員	<p>はい。</p>
会長	<p>「進み」で止めるのはどうですか。</p>
高村委員	<p>そうですね。おっしゃるとおりです。</p>
浅岡委員	<p>「進み」というか「進め」ですかね。</p>
事務局	<p>省エネとかエネルギーの効率利用、そういうことも含めてということですね。</p>
浅岡委員	<p>はい。エネルギー消費自身も削減するし、効率化も上がると。省エネ、量も効率も改善させていくということです。CO₂の排出量と経済の成長というものを連動させて考えることから、そこを分離して考える。だから、ヨーロッパの目標としてはCO₂を下げ、同時に経済を活性化させる。それこそEUとしての課題あるいは目標であり、それを今、実現しているということです。</p>
会長	<p>まず1点、私のほうから言うのも何ですが、ここの記述は今どうするということではなくて、将来こういう状態になっているということを書いてあるところですよ。だから、「進み」というのはもう将来は進んでいるんだという記述になっているということ。</p> <p>それからもう一つ、いわゆる低炭素化、省エネルギー等と産業活性というところは、切り離しの部分もあるし、実はこういう省エネだとか低炭素化を進めることによって、それによって実は経済の活性化も図れるのだという部分もあるだろうということで、後者のほうを中心に書いているという理解をしています。</p> <p>ここは具体的に言うと「進み」という状態で同時にという意味ですね。</p>
篠崎委員	<p>ちょっと質問なのですが、パブリックコメントでも関西産業ビジョンとの整合性を図ることが言われております。それで、関西産業ビジョンの中間案のほうを拝見していますと、「関西が目指す将来像」という中に、3つほど</p>

	<p>あがっていて、その3つ目の「◆地域の魅力を支える豊かな生活圏を形成する〈新たな価値を創出関西〉」とこちらの将来像がすり合わさっていただけないと思いますが、その産業ビジョンに対してコメントする場ではないとは思いますが、こちらの環境ビジョンで今議論されているあたりが検討されているように見えないのと、それから当環境ビジョンのほうには暮らしも産業も元気という言葉があるのですけれども、むしろスローで豊かな生活という言葉のほうがこの環境ビジョンのにふさわしいのではないかと思います。パブコメに、暮らしも産業も元気という言葉が非常にわかりやすい指摘があるのですが、その元気が従来の価値観の元気ではないというあたりを、きっちり表現しきらないといけないのではないかと私は思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございました。まず1点目の産業ビジョンのほうの3ページの一番下の地域、心のかかわりについて、事務局はどうのご配慮をされて、この環境のほうと整合を取られるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この産業ビジョンのほうでございますが、豊かな自然がはぐくむ地域資源を活用し、あるいはまた関西が有する多様な歴史資源、食文化を初めとする文化資源等々を活用して新たな価値を創出し、スローで豊かな生活を実感できる多様性を持つ生活圏を形成と、この辺のところと今の書き振りの整合を両方で調整します。</p>
<p>篠崎委員</p>	<p>もう少し産業ビジョンのほうにも記述いただき、こちらにも詳述していただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>両方に関わることでですのでよろしく申し上げます。それについては、また次回ご説明いただきたいと思います。</p> <p>それでは、次が第3章の「施策の展開」、そして第4章の「計画の進行管理について」の意見をいただきたいと思います。単純な数値目標が仮に決められるものがあれば、事業のベース目標等についてのご意見もいただきたい。それから、第Ⅱフェーズは順次これから進めていくので、新たな展開みたいところでのご意見をいただければ非常にありがたいという事務局のほうからのコメントがありますが、そういうことも含めまして第3章、第4章でご意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>先ほど少し先送りしました29ページと31ページの(4)、(5)。これ</p>

井上委員	<p>は順番もというのはいいですが、この29ページのところで先ほどのご意見いただきました内容に仮に少し近づくといいのですか、あるいは整合がとれるような持続的であるとか、そういったところの第Ⅱフェーズに向けての施策みたいところで何かございましたら、特にご意見をいただきますと、先ほどのご意見のところより鮮明に書き込めるかと思しますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>では、それ以外も含めて何かご意見、ご質問がございましたらよろしくお願いいたします。</p> <p>21ページの下の方に、これまた産業界の低炭素化というコメントと、それからそれを実施するための具体的な取り組みが22ページの上の箱のところに書いておられて、最初の第1章のところの現状分析とも重なるのですが、浅岡先生が先ほどおっしゃった中環審での環境政策の議論や分析、それからエネルギー基本計画の見直し、こういったものが平行して進められているのですが、それはその議論に任せるということで、第1章の記載というのは、私としましては、現状分析はもう少し書けるところというところは事務局にお任せして、そういった記載でこの広域連合としてのレポートはとどめるというのが良いと思います。</p> <p>この21ページ、22ページは、あくまでこの関西広域連合として取り組んでスケールメリットのあるという観点から、ここで産業界とは言いながら、要するにこの中身はオフィス系の取り組みを整理してくれたわけですね。オフィス系での省エネ活動とかエコオフィス運動ということで、我々関係連としましてもこういった取り組みを進めておりますので、この記載については大賛成で、こういった観点で進めていただきたいと思います。</p> <p>あと、プロセス系の産業系については、先ほども申し上げたように、自主的な取り組み、自主的な分析ということに委ねざるを得ないところがございますので、この記載のとおりで進めたいというのが私のコメントでございます。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。今、特にどうこうというわけではなくて、ご意見として承るということで、議事録のほうでよろしくお願いいたします。</p>
中瀬委員	<p>25ページからの「自然共生型社会づくり（生態系保全）」ということなのですが、この記述の中で27ページ、「順次拡充する政策」ということで第Ⅱフェーズのことを書いておられるのですが、このカワウのことは一切異存ございません。</p>

事務局	<p>しかし、今、我々が心配しているのがヌートリアとアライグマです。これは今手を打っておかないと、ネズミ算式に増えていくでしょう。だから、1年遅れたら倍々の駆除費がかかってくるケースがあるのですね。そうすると、ここでカワウだけを書いています、今、アライグマ、ヌートリア、クマまで増えていると言われていていますね。そういったところを広域でどう考えるのか、我々もちゃんと考えており、カワウだけの話ではないという記述を、ぜひどこかで入れられないかなと思います。</p> <p>今のいただきましたご意見は、ここの冒頭の取り組みの方向性の中にといいうことをございましょうか。カワウ以外の鳥獣についてもこういったような管理対策を展開していくことを検討するものと書かせていただいています。それで不十分ということをございましょうか。第Ⅱフェーズの取り組みの例の1つ目にも、カワウ以外の広域的な鳥獣保護管理計画の策定及び当該計画に基づく取り組みの実施と、こう書かせていただいております。</p>
中瀬委員	<p>そうですか。私だけが異常なのかもしれませんが、一般論的に言ったら「以外」で通るかもしれないですが、私が属しているところで、兵庫県では淡路島だけまだヌートリアが入っていません。ところが、あれを入れたらもう終わりだという議論がガンガンと起っています。</p>
会長	<p>御存じだと思いますが、ヌートリア、アライグマというのはネズミ算式に増えています。だから、時期を失すると、対応の仕方が全く変わってくるのです。</p>
会長	<p>今の先生のご意見を私なりに理解しますと、1つは今先生が挙げられたものについては、すぐに手を打たなければいけないので、第Ⅱフェーズなんて言っているような状況ではなく、カワウと同じように名前を挙げて採用するように検討していただけないかということ。それからあとのクマ等については第Ⅱフェーズでも間に合うかもしれないので、ここでその他の鳥獣という理解でよろしいですか。</p>
中瀬委員	<p>はい。</p>
会長	<p>それで、今挙げたものについて私はよく理解をしてないものですから、少し事務局のほうでどういう緊急事態か、とにかく先生にも少し情報を入れていただきたいと思います。</p>

事務局	資料をお願いいたします。
中瀬委員	兵庫県森林動物研究センターにあります。
会長	カワウと同等ぐらいの緊急性があつてということであれば、少し事務局のほうでご検討いただくということによろしいでしょうか。
中瀬委員	はい。 それともう一点、森林の荒廃についても書いてほしいのです。要は、こういうものを放置することによって森林が荒廃するという。トータルで環境保全をすることがまず前提ですということであれば、このアの展開のところで総合的な環境、自然生態系保全をまず目指しましょうというふうなフレーズが入るといいかなという気がします。
事務局	現状課題のところでもそういう書き方ができるのかなと思います。先ほど、森林保全の記述というご指摘をいただいていますので。
会長	それで、よろしいですか。
中瀬委員	はい、ありがとうございます。
会長	少し今の先生のご発言で何か調和のとれたような環境づくりというのですか、森林もそうでしょうし、畑、田んぼの話もそうでしょうし、そういうのはどこかに必要ですね。何となく特出しだけではなくて、全体としてというように、この自然共生型社会づくりとはまさしくそのことだろうと思うのですが。
中瀬委員	今、先生のご指摘の「共生」という言葉の英語翻訳を環境省さんがかなり困っておられたみたいで、「共生」というすばらしい概念を持っているのは我々だけです。そういうところをうまく使い、特に関西は「共生」という概念をずっと持ち続けた地域ですから、それを森林、田畑、そして今の生き物の「共生」という概念を現状で書かれたらいいですね。
会長	25ページのアのところに書けると具体的になりますね。ちょっと工夫していただきたいと思います。

事務局	はい、わかりました。
高村委員	<p>大きくは3つございますが、その前に先ほど篠崎委員のほうからありましたのは、私も全く同感でして、既にご書いていただいておりますけれども、産業ビジョンのところ、いろいろ盛り込まれてはいるのですけれども、やはり大きく環境をテコにした関西の元気な産業というふうなところがうまく入るといいなというふうに思っておりますので、次回のところでまたどういう感じか教えていただければと思っております。</p> <p>3点でございますけれども、1つはこれは第3章だけではなくて、先ほども申し上げたところでもありますけれども、低炭素化だけではなく、ぜひ省エネルギーなり、あるいはエネルギーのより効率的な利用なり、パッケージで双方入れていただきたいというふうに思っております。これは先ほど理由を申し上げましたので、これは文調の問題でございます。</p> <p>それから2つ目は少し大きなといいましょうか、大きいというのは編集上の問題かもしれませんが、21ページのところでございます。再生可能エネルギーの導入促進については、第Ⅱフェーズからというふうでございますが、私自身は既にこの工程図を見ても、第Ⅰフェーズでやられることが書かれておりますので、むしろこれも第Ⅰフェーズからやるというふうにお書きいただくほうがよいのではないかと。つまり、具体的に何か外に打ってでる施策ではないけれども、しかしながら他のところを拝見しても行政内での検討というのも施策の中に入っておりますので、そういう意味ではこのところではありますが、当面第Ⅰフェーズのところ、最後④でございまいしょうか、再生可能エネルギー導入・促進というのをに入れていただいて、ここに書かれている、例えば本格実施に向けた調査・検討といったようなことを盛り込んでいただくのがよいのではないかと思います。</p> <p>現在の社会的な要請といいましょうか関心からしますと、3年後にやりますと、かなりその状況には答えないかのような誤解を与えてしまうように思いまして、実際にはその準備をしていくということを予定されているわけですから、書き振りの問題でございますけれども、そのようにしていただくのがよいのではないかとというふうに思っております。</p> <p>3点目でございますけれども、第Ⅰフェーズに施策として入れていただきたいと思っております。何かといいますと、特に再生可能エネルギーの導入・促進に関して言うと、これは恐らく府県単位でやるのは非常に非効率的でして、逆に徳島県、鳥取県と言ったような、いわゆる関西広域連合の強みを広域で生かせるポテンシャルを持った県を抱えているということをお考えますと、この2年間の第Ⅰフェーズの中で、関西広域連合あるい</p>

	<p>はそれぞれの府県のところで、1つは持っている賦存量についてやはり明らかにしていただいて、調査・検討の中の一環だと思いますけれども、その上で何が導入の課題なのかということを持ち寄って、関西広域連合として何ができるのかということを中心に第Ⅱフェーズにつなげる形で、課題の展開にするというのをに入れていただければというふうに思っております。</p> <p>その中でぜひ、そういう意味では入れていただきたいことはたくさん出てくるのですが、ポテンシャル以上のものはできませんから、一定のポテンシャルと課題を踏まえた上で、関西広域連合としてのどういう水準までこうした再生可能エネルギー導入を目指すのかといったことを、第Ⅰフェーズの検討の中でぜひ検討いただきたい。これは当然、府県がどれぐらいできるのか、何が課題かということの検討と結びついている。そうした一定の目標を広域で持つということが、恐らく促進の稼働力になるというふうに思います。</p> <p>そして、入れていただきたいことの3点目でございます。これはただ低炭素だけではなくて、恐らく流域のところなどでも関わるのですけれども、ちょっと不明で恐縮ですけれども、こうした関西広域連合単位でより具体的な課題とか議論をしていく行政レベルでのプラットフォームがあるのかどうかという点でございます。今、再生可能エネルギーがまさに広域で最終的に議論をしていくことがやはり効率的だとおっしゃいまして、同じことは恐らく流域全体での生態系の保全といったような議論、先ほどまさに中瀬先生がおっしゃいましたけれども、そういう行政のレベルのプラットフォームがもしないのであれば、やはりそれは作っていただくのがよいのではないかというふうに思います。3点目は再生可能エネルギーのところへ入れていただきたいのですが、しかしながらほかの施策でも恐らく類似のものがあると思しまして、その点、ご検討いただけないかということでございます。</p> <p>ありがとうございます。それでは、1点目の低炭素化という言葉と一緒に省エネとエネルギーの効率化ということですが、これはよろしいですね。</p> <p>それから、あとの2点、3点は大体同じようなことのくりだと思っておりますが、この第Ⅱフェーズでやるということで、第Ⅰフェーズから検討を始めるということでは、再生エネルギーの件については、要するにまだ生ぬるいのではないかということで、より具体的に府県のポテンシャルの計画と課題をまとめる、あるいは府県ごとに計画を立てる、あるいは関西広域連合でこれ用の議論の場を設けるみたいな、より具体的なことを書けないかと。</p> <p>環境保全局で広域環境保全を担当いたしておりますが、別途知事会、関西広域連合としてエネルギー検討会というものを設けまして、中長期的な関西</p>
会長	
事務局	

<p>会長</p>	<p>におけるエネルギーのあり方の議論を始めております。それは来年度にはまとめようということになっておりまして、その検討の進み具合にもよると考えています。</p> <p>ただ、おっしゃるように賦存量、あるいはその実現可能量を導くための課題等は各府県で整理していると思いますので、それは情報としてはあります。その情報交換等は第Ⅰフェーズから始められるかなというふうに思っています。そのエネルギーの検討会の関係をどう書くのかというのは、今ひとつ即答はしかねる部分がございます。それはちょっと相談をさせていただきたいと思います。</p> <p>そうしたら、25ページで第Ⅰフェーズから順次、調査・検討するよりも、より具体的に第Ⅰフェーズからやってほしいというご意見でありますので、少し事務局からどう扱ったらいいかということを検討いただいて、次回のごときに、それについても決まっていなければ、決まっていないうふうにご報告させていただきたいということにさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>わかりました。</p>
<p>浅岡委員</p>	<p>再生可能エネルギーについて第Ⅰフェーズで課題として明示をするというのは大事なことだと思いますので、そうした打ち出しはぜひやってください。中身については、高村先生がおっしゃってくださったようなことは、重要な視点だと思いますからお願いします。</p> <p>そういう中で、バイオマスについても随所に配慮していただいたところが見えまして、これが実現していけるように、近いところから同じような観点で課題を持ち回ってやる必要があると思うのですけれども、これもこういう温暖化の問題と資源循環のところとで同じようにバイオマスを捉えながら、何かちょっとぼつんぼつんと切れているような気がいたしまして、ここは冒頭の森林部分はバイオマス、森林というもの全体を3章のところとどう書くかわからないのですけれども、例えばこの施策の中で23ページのウのところと第Ⅱフェーズとなっているのは、前倒しをしてくださいねということですが、 「具体的な取り組みとして」という中の2行目、3行目の「木材や有機性廃棄物などを活用して・・・考えられる。」は、ちょっと弱過ぎる表現だと思うのです。</p> <p>それから、次の資源循環のところと28ページでしょうか。こちらのほうでは、「間伐材や建築廃材の木材の熱利用」、バイオマス資源というふうにあります。何かぼつんぼつんとなっております。もうちょっと統合という</p>

	<p>か、まとめてその中山間地域全体をどうしていくのかというような課題の中でとらえることができないのかと思います。どう書いたら満足ができるのかというのがあるのですが、こうぼつぼつと書きながら、中山間地域の活性化みたい問題の中でもう一度まとめるというふうになるのかもしれない。いずれしましても、何かぼつぼつという感じがいたしました。</p> <p>それから、18ページのところですが、最初の認識のところにも絡むのですけれども、「低炭素社会づくり」、「①環境と経済の両立」というところは、両立という言葉乗り越えて環境保全を図る、そういうふうに問題意識を理解しやすくするというような表現を、ここでとれることが重要なのではないか。少しフェーズが変わっていることを伝えられるニュアンス、そういう話が随所に入ってくると。</p> <p>それから、バイオマスについて発電所でこれを活用するというふうなニュアンスで書いているのかなと思えるところがあったのですけれども、どこだったのか今探しても見つからない。そういう意識はないのですかね。そういう認識を持っていないのであれば、それでいいのですけれども。</p>
会長	<p>まだその具体的な細かいところまでは、この計画の中で書いてないだろうと思います。実際、下水汚泥も低温炭化なり乾燥して石炭代替で使うということで動いているところもありますので、そういう細かなことを書き込むということは、多分次の具体的な計画なのでしょうかね。</p> <p>今のところはその認識はないですね。</p>
浅岡委員	<p>わかりました。</p>
会長	<p>それでは、この3章、4章だけでなく、いずれのご意見も全体を通じてのことになりますので、各章でご議論いただきましたのは、場所によりましてはまたもとに戻ったような書き方の、変えなければいけないところもあるかと思いますが、全体を通じて何かございますか。</p>
中瀬委員	<p>今の浅岡委員の発言とバイオマスはほぼ一緒なのですけれども、大阪府さんのバイオマスの構想をつくらせていただいて、四国のこともやっていました。そうすると、バイオマスと一概に言っても、結構多種多様、質も違いますね。使い方も違いますね。そういう意味では、今ご指摘のように、ぱらぱらと出てくるのです。</p> <p>例えば、間伐材の利用と言いましても、これは1府県でやるよりは関西広域連合でやるほうが集積メリットが出るといいますね。あるいは、地産地消</p>

<p>会長</p>	<p>でやるよりメリットがありますね。そこら辺のことをどう表現していくのか。やっぱり1回どこかでやらないと。今、僕もそれをまとめたことはないです。</p> <p>今、バイオマス活用促進法というのができまして、それに基づきます目標というのを専門委員会で決められましたのですが、おっしゃるように非常に多くて、片や森林から片やゴミまで含めており、なかなかそのまとまりがないところがあります。</p> <p>ただ、そういう一括した方向で農水省さんが主管で関連7省庁が中心になって動いてはおります。それをここに取り込むのは、なかなか難しいところがあるかなと思ってまして、ここは書けるところを書いて、とにかく具体的な施策の時に、そういうところを具体的にやっていかなければならないのかなと思っております。</p>
<p>浅岡委員</p>	<p>中山間地域で、京都ではなくて関西の北部にまたがっている府県を越えた中山間地域全体の問題を環境の視点からどう捉えるかと。エネルギーの供給源であり、また生物多様性との関係もありというようなことでまとめてやっていくと、特にそれは電力もあれば、むしろバイオマスは熱分制御するほうがずっと本当はいいのだらうと思いますから、そういうまとめができて、それが生物多様性なり地域の循環の中でも調和的になれる方策を一緒にとっていくというようなことを提案できればとてもいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしいですか。そうしたら、またそれも少し検討して、どこかでもう少し体系的に書けるかどうか検討いただくということで。これもなかなか難しく、山の形態とか森林組合の状態とか、いろんな持ち主の問題とかいろいろありまして、なかなかうまくいかないところがありますが。</p>
<p>浅岡委員</p>	<p>そういった意味で調査を。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね。調査を始めるということですね。</p> <p>それでは、本日の議題は以上ですが、事務局に幾つかお願いをしている点もございますので、できるだけ早く事務局のほうも完全に詰まらなくても結構ですので、委員のほうに連絡をとっていただいて、次回までにはかなり詰めていただきたいと思います。それと委員の皆様方も、きょう帰ってこれをまた読んでいただきまして、一字一句、誤字脱字の部分でも結構ございま</p>

事務局	<p>すので、できるだけ確認をと思っておりますので、ご意見を出していただきたいと思います。</p> <p>では、次のその他で今後のスケジュールというのがございますので、それにつきまして事務局のほうからご説明をお願いいたします。</p> <p>（【資料3】今後のスケジュールについて説明）</p>
会長	<p>次回の予定、よろしいでしょうか。ありがとうございました。</p> <p>それでは、先ほど申し上げましたように、本日いただきましたご意見、今後まとめるべきところを事務局のほうでまとめていただきまして、また今後出てくる委員のご意見もおまとめいただきまして、進めていただきたいと思います。先ほどの話では次回は12月でしたね。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、議事進行を事務局のほうにお返しいたします。よろしくをお願いいたします。</p>
閉会	<p>（司会挨拶）</p>